



Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科)(2019.12) 令和元年度:39-40.

医療系大学生の臓器提供に関する意思と死生観との関連—家族の臓器を提供する場合の意思に注目して—

和泉 佑和子, 伊藤 成美, 山口 果南

# 医療系大学生の臓器提供に関する意思と死生観との関連 —家族の臓器を提供する場合の意思に注目して—

和泉佑和子 伊藤成美 山口果南  
(指導:一條明美 綱元亜依)

## 緒言

2010 年の改正臓器移植法の施行により、本人の臓器提供意思が不明な場合でも家族の承諾によって臓器提供が可能となった。しかし移植を希望する人の数に比べ臓器提供が少ないのが現状である。また日本臓器移植ネットワークによる平成 29 年度臓器移植に関する世論調査では臓器提供の意思表示率が低く、臓器提供されたケースのうち約 8 割が家族の承諾によるものである。そのため、提供者本人の意思を確認できない状況下で決断を迫られる家族の精神的負担はかなり大きいと考えられる。畠山ら(2005)によると脳死を死と捉えるかには各人の死生観が反映している。よって死生観が臓器提供の意思に与える影響は大きいと考えられる。

本研究では臓器提供は家族による承諾が多いという点に着目し、家族が脳死と宣告された場合、家族の臓器提供承諾にどのような要因が影響しているのか、医療系大学生の意思とその関連要因を明らかにすることを目的とする。これにより今後の医療現場において、臓器提供の有無の決断を迫られた家族に対するケアの一助になるのではないかと考える。

## 方法

### 1. 研究対象

Q医科大学医学部医学科・看護学科 1～4 学年(医学科:約 480 名・看護学科:約 240 名)

### 2. 調査方法

令和元年 8 月 28 日～9 月 24 日において無記名自記式質問紙を用いて集合法で調査した。質問紙は講義室内に設置した回収ボックスにて回収した。

### 3. 調査内容

内閣府の世論調査を参考に①臓器提供について家族と話した経験②改正臓器移植法の理解③臓器提供に関する知識④自己における臓器提供意思と表示の有無⑤身近な人と死別した経験の有無⑥脳死状態にある家族の臓器提供意思を尊重するか否か⑦意思表示がない家族の臓器提供を承諾するか否か⑧死生観(臨老式死生観尺度 7 件法)の 8 項目から構成される質問紙を作成した。

### 4. データ分析方法

上記①～⑧について単純集計後、家族の臓器提供の承諾の可否で 2 群に分け、各質問項目との関連について  $\chi^2$  検定、死生観尺度の平均の差との関連について Mann-Whitney U 検定を実施した。

### 5. 倫理的配慮

旭川医科大学倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号 19064)。質問紙は無記名で個人が特定さ

れることはないこと、協力は任意であり協力の拒否による不利益はないことを文書及び口頭で説明し、対象者には質問紙の提出をもって同意を得た。

## 結果

学生 734 名に質問紙を配布し 524 名から回答があった(回収率 71.4%)。うち有効回答数は 458 名(有効回答率 87.4%)であった。

### 1. 意思表示がない家族の臓器提供承諾の可否

意思表示がない場合家族の臓器提供を「承諾する」238 名(52%)、「承諾しない」220 名(48%)であった。

### 2. 家族の臓器提供承諾の可否と関連因子

臓器提供承諾と各関連因子の結果を表 1～4 に示す。

表 1 各調査項目の回答結果の割合 n =458(%)

|                | ある          | ない          |             |
|----------------|-------------|-------------|-------------|
| 家族と話し合ったことがあるか | 239 (52.2%) | 219 (47.8%) |             |
| 法改正への理解        | 307 (67.0%) | 151 (33%)   |             |
| 身近な人の死の経験があるか  | 328 (71.6%) | 130 (28.4%) |             |
|                | する          | しない         | わからない       |
| 家族の意思を尊重するか    | 445 (97.2%) | 13 (2.8%)   |             |
| 自身の臓器を提供するか    | 293 (64.0%) | 56 (12.2%)  | 109 (23.8%) |
|                | している        | していない       |             |
| 自身の意思表示はしているか  | 111 (24.2%) | 347 (75.8%) |             |

表 2 臓器提供の意思表示をしていない理由(複数回答)上位 3 項目

|                             |     |
|-----------------------------|-----|
| 自分の意思が決まらないから、後で記入しようと思っていた | 135 |
| 特にな                         | 80  |
| 臓器提供や臓器移植に抵抗感があるから          | 45  |

表 3 家族の臓器提供の承諾と意識・知識の関連 \*\*\*p<0.001

|           |       | 家族の臓器提供 n =458(%) |           | 有意確率        |
|-----------|-------|-------------------|-----------|-------------|
|           |       | 承諾する              | 承諾しない     |             |
| 家族の意思     | 尊重する  | 238 (100%)        | 207 (94%) | p =0. 00*** |
|           | 尊重しない | 0 (0%)            | 13 (6%)   |             |
| 自身の意思表示   | している  | 74 (31%)          | 37 (17%)  | p =0. 00*** |
|           | していない | 164 (69%)         | 183 (83%) |             |
| 法改正の理解    | ある    | 160 (67%)         | 147 (67%) | p =0. 926   |
|           | ない    | 78 (33%)          | 73 (33%)  |             |
| 身近な人の死の経験 | ある    | 168 (71%)         | 160 (73%) | p =0. 612   |
|           | ない    | 70 (29%)          | 60 (27%)  |             |
| 家族との話し合い  | ある    | 132 (55%)         | 107 (49%) | p =0. 144   |
|           | ない    | 106 (45%)         | 113 (51%) |             |

表 4 家族の臓器提供承諾の可否と自身の臓器提供意思

|         |       | 自身の臓器提供 |      |      |     |       |      |    |      |
|---------|-------|---------|------|------|-----|-------|------|----|------|
|         |       | 提供しない   |      |      |     | 提供する  |      |    |      |
|         |       | 度数      | 期待度数 | 残差   | 度数  | 期待度数  | 残差   | 度数 | 期待度数 |
| 家族の臓器提供 | 承諾しない | 51      | 26.9 | 6.9  | 92  | 140.7 | -9.5 | 77 | 52.4 |
|         | 承諾する  | 5       | 29.1 | -6.9 | 201 | 152.3 | 9.5  | 32 | 56.6 |

## 3. 死生観と家族の臓器提供の可否との関連

家族の臓器提供承諾の可否と死生観との関連では、1.死後の世界観において有意差が見られた。

※臨老式死生観尺度の各項目は得点が高いほど強く考える傾向にある。各項目で平均値を算出し、1.死後の世界観～6.死への関心までは 16 点(どちらともいえない)を、7.寿命観については 12 点(どちらともいえない)を基準として平均値を捉え傾向の強さを見る

表 5 家族の臓器提供承諾の可否との関連 \*p<0.05

|               | 家族の臓器提供（数）   | 平均値±SD    | 有意確率     |
|---------------|--------------|-----------|----------|
| 1. 死後の世界観     | 承諾しない（n=220） | 16.3±6.02 | p=0.048* |
|               | 承諾する（n=238）  | 15.0±7.20 |          |
| 2. 死への恐怖・不安   | 承諾しない（n=220） | 18.2±6.35 | p=0.063  |
|               | 承諾する（n=238）  | 16.9±6.72 |          |
| 3. 解放としての死    | 承諾しない（n=220） | 12.3±5.35 | p=0.719  |
|               | 承諾する（n=238）  | 12.3±6.31 |          |
| 4. 死からの回避     | 承諾しない（n=220） | 11.3±5.07 | p=0.139  |
|               | 承諾する（n=238）  | 10.7±5.45 |          |
| 5. 人生における目的意識 | 承諾しない（n=220） | 16.3±4.98 | p=0.230  |
|               | 承諾する（n=238）  | 16.8±5.29 |          |
| 6. 死への関心      | 承諾しない（n=220） | 15.9±4.89 | p=0.388  |
|               | 承諾する（n=238）  | 16.2±5.17 |          |
| 7. 寿命観        | 承諾しない（n=220） | 9.8±4.97  | p=0.155  |
|               | 承諾する（n=238）  | 9.2±5.05  |          |

## 考察

### 1. 家族の臓器提供承諾の可否と背景因子の関連

内村ら(2018)の調査では、家族が脳死下臓器提供の意思表示していなかった場合、臓器提供を「承諾する」17.1%であり、内閣府の世論調査では「承諾する」38.7%であった。しかし本研究では「承諾する」52.0%で先行研究と異なる結果となった。世論調査の「家族と臓器移植について話したことがある」36.5%に対し、本研究では「話したことがある」52.2%であった。また、法改正について「理解している」67%であった。先行研究と比較して、本研究でこれらの項目の調査結果が高値となった背景としては、本研究の研究対象が医療系大学生であり、講義等で人の理解や命について学び、臓器移植に触れる機会があるため、臓器移植への関心が高いという集団の特性が反映されていることが考えられる。

大宮ら(2013)の調査では家族が臓器提供を承諾した理由として、「本人の臓器提供の意思尊重(書面及び口頭)」が9割以上であった。本研究でも書面による意思表示がある場合、97.2%が「家族の意思を尊重する」としているが、意思表示がない場合家族の臓器提供を「承諾する」52.0%というように、意思表示が臓器提供承諾の可否の決定に大きく影響していると考ええる。しかし意思表示の有無に関しては、世論調査は「意思表示をしている」12.7%、本研究では24.2%であった。対象が医療系大学生で臓器提供に関して触れる機会が多いため世論調査を上回ったと考えられる。一方で75.8%が「意思表示をしていない」としている理由は、「自分の意思が決まらないから、あるいは後で記入しようと思っていた」が最多である。このことから、臓器提供意思を明記するほど意思が確定していないため意思表示をためらうことや、臓器提供意思が決まっていたとしても意思表示の行動化に至るきっかけがないことが推測される。

表3に示したように、意思表示がない家族の臓器提供承諾の可否と自己の意思表示の有無との間に有意差(p=0.00)が認められることから、意思表示がない家族の臓器提供の承諾と自己の臓器提供の意

思表示に関して関連があることが示唆された。

内村ら(2018)は家族が臓器提供の意思決定をするためには、本人の意思を共有できていることが大切であり、家族間で予め話し合う機会を持つことを推奨している。本研究では、意思表示がない場合家族の臓器提供を「承諾する」群においては55%が、「承諾しない」群では49%が、家族間での話し合いが「ある」と回答した。臓器提供の意思表示率の低い現状において、家族間での話し合いは意思表示がない家族の臓器提供の承諾可否の決定において、重要な意味を持つことが考えられる。

### 2. 家族の臓器提供承諾の可否と死生観の関連

〈死後の世界観〉と比較して、家族の臓器提供を承諾する群(15.0点)は、家族の臓器提供を承諾しない群(16.0点)において、やや霊的な考え方(魂や生まれ変わりなど)が強い傾向があった。臓器を提供することで、家族が死後の世界で何らかの影響があるという考えがあり臓器提供に否定的になるのではないかと推測する。

また、有意差は見られなかったが〈死への恐怖・不安〉は、家族の臓器提供の可否と関連があると考えられる。承諾する群(16.9点)と比較し承諾しない群(18.2点)の得点が高く、死への恐怖・不安が大きい傾向にあった。自己の死に対して恐怖・不安が強い傾向にあるということは、家族の死に対しても同じ傾向であると考えられる。そのため、脳死の状態にある家族から臓器を提供することにより、死がより確実なものとなってしまったため、その恐怖や不安から承諾しないという考えを持ちやすいのではないかと考える。

## 結論

意思表示がない場合の家族の臓器提供の承諾に関連する要因は、自己の臓器提供の意思表示、家族の意思表示、死生観(死後の世界観)であった。

## 今後の課題

本研究は一施設での実施であり、対象者が医学生・看護学生に限定されているため一般化できるとは言えない。本研究結果を臨床での看護実践に活かすには今後対象を拡大した調査が必要である。

## 謝辞

本研究に当たり、ご協力いただいたQ医科大学医学部学生の皆様に心より感謝申し上げます。

## 引用文献

- 1) 畠山義子, 小林真澄(2005): 看護学生の臓器移植に関する意識調査, 山梨県立看護大学短期大学部 紀要, Vol.11, No.11
- 2) 平井啓, 坂口幸弘, 安部幸志, 他 (2000): 死生観に関する研究, 死の臨床 23 (1): 71-76,
- 3) 内閣府(2017): 臓器移植に関する世論調査, <https://survey.gov-online.go.jp/h25/h25-zouki/>
- 4) 日本臓器提供ネットワーク, <https://www.jotnw.or.jp/jotnw/credo.html> 2019.4.26 アクセス
- 5) 大宮かおり, 芦刈淳太郎, 小中節子, 他(2013): 脳死下臓器提供 事例102 例の臓器 あっせん業務の検証(ドナー家族への対応), 移植, Vol.48, No.2・3, :96-101
- 6) 内村菜, 西尾亜理砂, 小松万喜子(2018): 自分と家族への臓器移植に対する大学生の考え方と臓器提供に関する家族間の意思表示の有無と関連要因, 死の臨床, Vol.41, No.1, :180-186